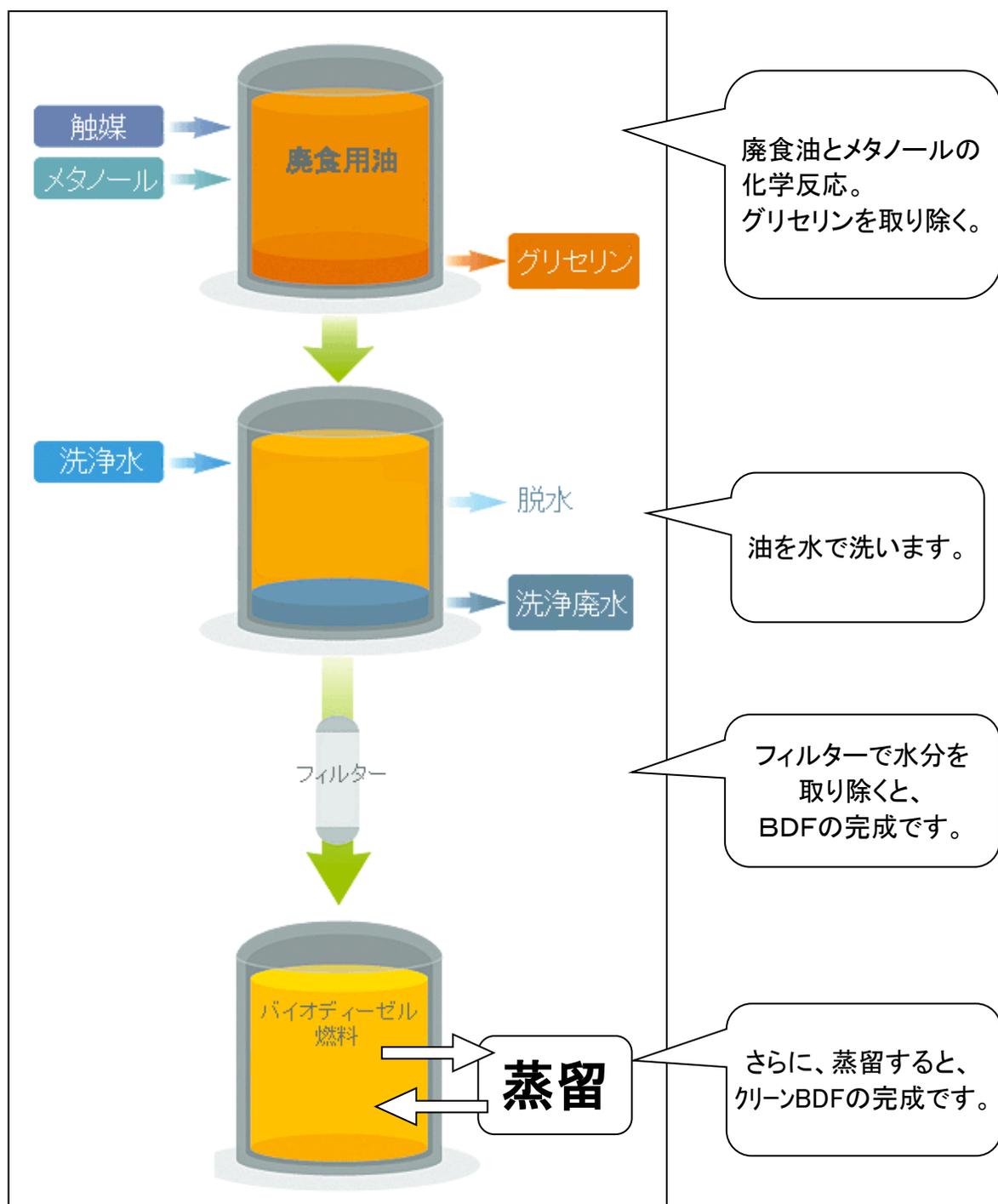


Q. BDF(バイオディーゼル燃料)とは？

BDFとは、廃食用油(植物性)から作るディーゼル燃料を言います。化石燃料(軽油)の代替燃料として、ディーゼルエンジン(車、発電機、農機具など)に使用可能です。いずれ枯渇してしまう化石燃料に対して、地球の自然の中で繰り返し出来る再生可能なエネルギーです。

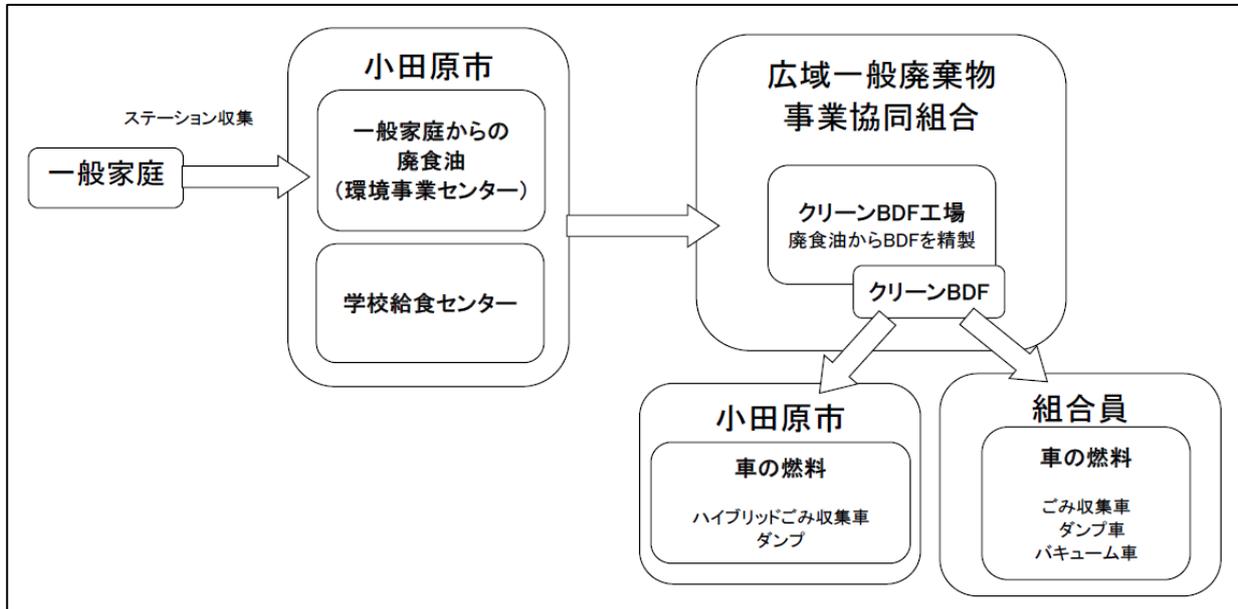
■クリーンBDF(バイオディーゼル燃料)の作り方



小田原市廃食用油燃料化事業

現在、小田原市と共同で廃食用油の燃料化実証研究を行っています。

枠組み



（休刊月曜日）日刊
2010年（平成22年）6月1日（火曜日）

環境への思いやり拡大

バイオディーゼル燃料のごみ収集車

同センターでは資源イクル事業協同組合と共同で回収した廃食用油を計画、2008年10月より回収し、バイオディーゼル燃料の製造（製造広域）の導入を開始した。

同センターでは資源イクル事業協同組合と共同で回収した廃食用油を計画、2008年10月より回収し、バイオディーゼル燃料の製造（製造広域）の導入を開始した。

エンジンも改良 小田原市

当初の同燃料混合率は5%と低かったが、その後法律が改正され、100%の使用が可能になった。同燃料は廃油や動物脂肪などが原料で、収集車のエンジンはディーゼル。当初は軽油に5%の同燃料を加えた混合だった。このためエンジン部分にすずがたまるとして、不調を起すことがしばしば、手入れが重要という。現在は燃料の精度や出量の削減が肝要。その

神静民報

小田原市環境事業センター（藤野夫所長、同市及野）では低公害車の普及、促進を旨くから取り組み、環境にやさしいごみ収集車を導入するとして、二酸化炭素の排出削減を努めている。昨年度からは、廃食用油を原料とするバイオディーゼル燃料をこみ収集車3台に配備し、実験を開始。この取り組みは、同センターの話では「世間初」。成果がよければ、導入台数を順次増やしていく方針という。

同燃料は軽油や動物脂肪などが原料で、収集車のエンジンはディーゼル。当初は軽油に5%の同燃料を加えた混合だった。このためエンジン部分にすずがたまるとして、不調を起すことがしばしば、手入れが重要という。現在は燃料の精度や出量の削減が肝要。その

ディーゼルエンジンの改良（高圧噴霧）などが図られ、スムーズに収集車を動かせる状況になっている。同センターでは、玉置はまだ日が浅く、研究の内容が多い。各方面と連携を取り、の対策として、廃食油を原料にしたバイオディーゼル燃料が注され、同燃料のカーボン削減の希望を燃焼によって、酸化素が排出されても、気中の二酸化炭素の量は増えない。